



第146号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会長 博
宮川 博
編集人 会報編集委員長 匡
滝澤 祥
印刷所 須坂新聞社

研究委員会 中間報告

「子どもがねばり強く自己形成していくための指導のあり方」という全体テーマのもとに、四月以来、各研究会ではさまざまな教育研究がなされてきました。各委員会では現在どのような課題をもち、成果が得られているのか、後半に向けて、中間報告をしていただきます。

研究授業から授業研究へ — 児童・生徒の確かな育ちを —

研究副委員長 北島 秀樹

本年度、研究委員会は「子どもがねばり強く自己形成をしていくための指導のあり方」を全体テーマに(3年次)「(1)基礎的・基本的内容を重視し、授業の改善を図る。(2)子どもの活動、つきたい力、評価の三視点から教材を明確に分析する。(3)子どもの多様な考えを生かして、一人ひとりの学習の成立を図る。」を研究内容として実践を重ね、半年を経た。

「子どもがねばり強く自己形成していくための指導のあり方」という全体テーマのもとに、四月以来、各研究会ではさまざまな教育研究がなされてきました。各委員会では現在どのような課題をもち、成果が得られているのか、後半に向けて、中間報告をしていただきます。

引き出し、他の教科との関連で指導するユニークな授業。(2)担任と交流し自ら切り開いてゆく養護教諭のあり方について等のご指導があった。今後、三枝先生のご指導を生かし、児童・生徒に確かな力を育てるためには次のようなことを考える必要がある。

研究のための授業ではなく、一層充実した授業とそのため研究をこそ今求められているのではないかと。すなわち、(1)基礎的・基本的な内容を、子供の実態に寄せて厳しく吟味しているだろうか。(2)個々の子供の素地能力や願いが十分に捉えられているか。(3)教材化や教材分析が甘く、個々に応じた助言や援助が不適切ではないか。(4)子供が理解してきたという実感ももてる一時間になっているか、等を子供の具体的な姿で考え、語り合う中で地道に授業を築き上げてゆくことであろう。(須坂小)

《提言》 響き合う原風景

富澤 慶吉

花壇のサルビアやマリゴ、イルドが、深まる秋の陰影にひととき鮮やかに映えている。音楽会が近づいて、どの教室からも子どもたちの歌声が響いてくる。静かで明るい空気が流れている朝のひととき、みんなが楽しく学べる学校であることをしみじみと願う。子どもたちは早く学校へ行って友だちと遊びたい、先生と話したいという期待感を

教育会だより

- 11 秋の講演会 会場須坂市公民館
- 12 演題 「日本人の心と文化」―その現在と過去と未来と―
- 16 講師 放送大学教授 笠原一男先生
- 16 教育会中間監査
- 16 信教全県研究大会北信地区 於飯山小学校 本会より25名参加
- 25 第7回常任委員会
- 25 研究委員会(2)
- 28 第13回郡研究発表会 於須坂小学校視聴覚室
- 30 第12回郡女教師研究大会 於須坂小学校視聴覚室
- 5 第8回代議員会・信教各種研究調査編集委員中間報告会(3)
- 15 第3回青年教師の集い 於信濃教育会館
- 24 上高井教育会報第147号発刊―第13回郡研究発表会第12回郡女教師研究大会特集―

「おはようございます」と先生が声をかければ、元氣のよい声が弾んで返ってくる。「先生、おはようございます」と後ろから声をかけてくる子どもがいる。「〇〇さん」と子どもの名前を呼び話しかけている先生の清らかな笑顔がある。

このように子どもと教師が響き合う学校の原風景は中学校に在る現在でも全く変わらなく私の中にある。ある子は家庭の苦しみを背負って、この子は学習に対する不安や悩みを抱いて学校へきている。先生とすぐには心が通じ合わない子もいる。それでもなお、子どもたちは学

算数・数学科

西沢 享良

「算数・数学学習を通して子どもがねばり強く自己形成していくための指導は、どのようにしたらよいか」をテーマに、「論理的な思考力と直観力の育成」をサブテーマにして、二回の実証授業を通して研究を深めようと考えている。

自らの課題をつかみ「何」を学習しようとしているのかはつきりさせ、見通しを持って追究することによって、ねばり強く自己形成をしていく姿が生まれるのではないか。

生きる力をめざして 委員会中間報告

第一回研究委員会は、さる七月五日(金)、墨坂中学校で行われた。一学年、単元「文字の式」授業者樋口まふじ先生、本時の主眼は「仕入れa円の品物に二割の利益をつけて売る場で、実際にいろいろ品物に定価をつけ、販売することを通して、 $ax + 0.2ax$ で利益が求められることを理解させ、定価の仕組みについても認識を深めさせる」であった。

特別活動研究委員会では、「個と集団とのかかわりの中で一人ひとりの自己指導力を高めるにはどのようにしたらよいか。」の研究テーマを設定し、さらに特別活動の中の学級活動に焦点をあてて研究を進めてきている。

学級活動では、それぞれの学級の望ましい集団活動を通して、豊かな体験の中で自己実現をめざしたり、自主的、実践的な活動から開かれた人間関係を育成することをねら

学級活動の指導方法としては、次の三つの点が考えられる。①教師が中心になって指導する場合、②児童・生徒による自主的な活動を中心として行う場合、③教師の指導と児童・生徒の自主的な活動を組み合わせて行う場合がある。

学級活動の展開案を作る時に、教師側から考えるならば、自分の学級経営上の問題点やよりよい学級へとめざす目標が考えられる。そして、次に題材や主題を決定し、学級集団のよりよい向上のために、自己受容、集団受容に目を向けさせ、自己決定や集団決定させる事が重要になってくる。

(高甫小)

① 問題解決的学習における場面設定のあり方、課題の持たせ方をさらに追究し、子ども自らが主体的に追究するための指導のあり方を深める。

② 論理的思考力と直観力の育成、さらに、関数的見方、考え方の育成について、その指導のあり方を深める。

③ 基礎・基本的学習の深まりと定着のほかり方を工夫する。

第二回研究委員会は、須坂小学校で授業研究を行い、三枝先生にご指導をいただけたことになっていて、テーマに一步でも近づき、理解の定着がしっかりできる授業をめざして、研究を深めていきたい。(相森中)

前は知っているのので深い話し合いにならない。そこで、子どもの立場からも考えていかねばならない。具体的な実践の場で協力できていない点をえぐり出し、児童・生徒が本音で話し合い、自分の意見を他人にぶつける事によって、自己と集団の見返しができてくるのである。また、集団の構成員の意思疎通を充分にし、個々が、しっかり実践意欲が高まってくるまで採決も決定もしない。機械的に多数決をとる事は、児童・生徒の自己指導力を育てないからである。

よりよい学級活動をめざして

神林 信雄

校歌・校章めぐり ⑮ 相森中学校

宮本 良明



本校は、学制改革による昭和22年4月須坂中学校の創立が歴史の創始であるが、翌年常盤中学校と分離独立して現在地に創設されたものである。

前身であった日本測定器工場跡の廃屋を学校とし、かなり雨もりのするひどい建物であった。学校の前には、ひとまたぎ出来る程の八木沢川が流れ、格好の青空教室でもあった。

また、校庭は荒地で扇状地の傾斜を残し、その整地には学校、地域が一体となって当

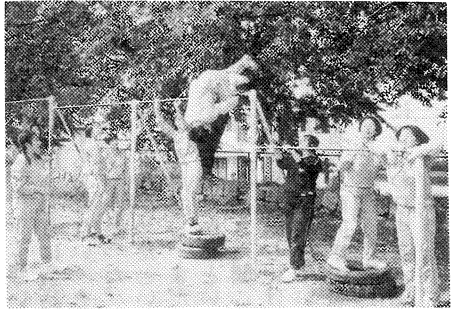
相森中学校校歌
Musical notation for the school song.

相森中学校校歌
Lyrics for the school song.

子どもの研究

保健体育

黒岩 和博



本年度、保健体育委員会で昨年度まで研究を積み重ねてきた郡独自のテーマに一応の区切りをつけ、県学校体育研究会の「楽しい体育」の考え方に学び、十一月の県学体研・須高大会にむけて、本委員会と同好会を合体して実行委員会を組織し研究を進めている。今回の開催にはいろいろな難問もあったが、郡として「楽しい体育」という言葉だけが独り歩きしないためにも、運動そのものの楽しさや面白さを直接身につけさせることを目的・内容とした「運動目的・内容論」をめざして現在研究に取り組んでいる。

七月五日の第一回研究委員会で、会員の共通理解に立つための事前授業を高山小学校と東中学校（授業者：松岡

一成先生、月岡広行先生、講師・佐藤昭二先生）に公開していただいた。研究テーマ（県体研のテーマ）は「すべての子どもが運動に自発的・自主的にとりくみ、運動の楽しさを深めるにはどうしたらよいか―生涯スポーツをめざした体育のあり方を求めて―」であり、特に「自発的・自主的な子どもの活動」に研究の焦点をあて、単元「器械運動（小六）マット運動、中三男（器械運動選択）で実証した。両校とも「楽しい体育」の考え方にそっての授業は初めての経験だったが、めあてにむかって多くの子どもたちが生き生きと学習に取り組んでいる姿がみられ、一定の成果を上げることができた。授業者研究会では、めあての果たせ方・その解決方法・学習の

場の工夫・資料提供の問題・教師の出について等、多くの先生方から意見がだされた。講師の佐藤先生には、研究協議の中でも「楽しい体育」の

東中学の英語学習から

深堀 昭夫

今年の前半の郡英語研究会は東中学校で開かれました。事前の小委員会では授業者の倉島先生が次のような事を申されました。「入門期における生徒は活発だが、高学年になると……その原因として生徒の心理的発達段階にそぐわない教材や教師の指導不足等が重なり不活発になっていく。特に三年生になると入試の影響かヒアリングには比較的真剣に取り組むようであるが、スピーキングの活動には全く消極的になってしまいう傾向が見られる。これらの問題を改善するために、生徒がどうしても英語を話さざるを得ない場面を教師が意図的に仕組む必要がある。」またAETのみならず外国人に一個人として正しく接する態度を育成していく必要が大切とも申されました。

このような願いの下で行われた授業は、先生と西川先生とのスピーチで始まりました。未習の語がいくつか話されましたが、二人の見事なチームワークで生徒達は容易に理解できました。生徒達の感を最

大限に発揮させ理解に導いた例として大いに勉強させて頂きました。

本文の導入時では新出語句を西川先生がわかりやすい英語で説明されました。とかく日本語でストリートに訳してしまいがちなものですが、AETをこうやって活用すればこんなにも生徒に受け入れやすい英語にも、生徒も喜んで学習するものであることを学びました。

教科書の学習を一通りした後、本時のまとめとして、コミュニケーションタイプ、アクティヴィティがありました。これは教室内の机を2〜4つ集めて一区画を作り、それらの机の上に郵便局、駅、病院などの建物の模型を置き、先生―生徒、生徒―生徒で道案内を実際にしてみようという先生の考えです。机でいくつかの区画を設けたり、建物を作り生徒の興味を引きつけ、必要と思われる表現を適宜与えて生徒のニーズを充たし活動を助けました。英語を使わざるを得ない場面の構成と生徒達の活発さが大変勉強になりました。（相森中）

保健研究委員会

熊谷 由子

本年度も「児童・生徒ひとりひとりが自らの健康を増進させるための具体的な指導はどうあったらよいか」という研究テーマのもと、「栄養に関心をもてる給食指導のあり方」ということで一回目委員会が須坂小学校で行われた。五年生で、宮坂秀則先生に養教の帯川先生も入り給食指導の授業公開をしていただきました。給食指導を中心に捉え、学級経営をされてこられたクラスで、準備や配膳時間がぎりぎり短縮され、食べる時間も一定に残業も全くないと、給食の基本的事柄についてできている。その素晴らしい学級で、より良い給食を目指し、栄養源としての食物の大切さが更に楽しいものとなる様にと授業を仕組みました。

主眼は、「献立作りゲームを班ごとに楽しむことを通して、体の成長と必要な食べ物との関係に気づき、栄養のバランスを考えて自分の好きな給食の献立を作ることができ」で、カード取りゲームをする授業の中で養教も栄養分類表を提示し、体の働きと栄養について説明した。授業の子ども達は、生き生き、どの子も自分から主体的に動き、またやりたいという様に満足感も得られ、友達との教え合いの場面や、教師の予測以上の発想豊かな子ども達の姿が見られ良い授業となった。

三枝先生からも

①ユニークでおもしろい、いい授業だった。

②一回目と二回目のゲームの意味が違っていて、その手前は子どもが動く学習となる。これは他の教科学習にも示唆を与える。

③養教との連携についても、これからは子どもの健康を中心にした教育課程を学校がどれだけ持つことができかがポイントである。養教自身からも教科との連携を切り開いていくことも大切。

等のご指導をいただきました。更に研究を深めていきたい。（墨坂中）



火ばら 談義



東京で行われた世界陸上。テレビにクギ付けになった。世界の壁は厚いけれど、この大舞台で健闘した日本選手の姿に心をうたれた。特にマラソンの谷口選手がトップでもどってきた姿に目頭が熱くな

ビリじゃなくて...

下川 光子

だって、私の知らないところで毎日努力を重ねてきた。競技する姿には、その過程と、それぞれの思いが秘められて

こんなふうには、大いに楽しんで見ていた世界陸上だが、一つ、どうしても気にかかることがあった。ある選手のインタビューでのこと。その選手が電話で奥さんとやりとりする場面があった。一言二言の後、奥さんが「ビリじゃなくて良かったね」と言った。奥さんは涙ぐみながらも明るくそう言った。たぶん、この奥さんは、ふだんも明るく、選手であるご主人を励まし、支え続けてきたに違いない。そして、上位入賞を逃しはしたが、立派に決勝を走りぬいた彼をなぐさめ、そして讃えるつもりでそのように言ったに違いないのだ。もしや前日、「ビリだったらかっこ悪いな」などと冗談まじりに会話を交したのかも知れない。それでも私は、ひっかかった。ビリじゃなくて良かったというのには、どこか淋しい。まだ後ろの人がいるんだからという思いはあきらめにさえ聞かせる。勝負の世界は厳しいけれど、それだけに、ねぎらいの言葉は、もっと前向きで暖かくあるべきだと思う。美しいドラマにこだわらずに、美しいドラマにこだわらずに、美しいドラマにこだわらずに、美しい

(栗ガ丘小)

自分の生き方を知った猫

廣瀬 雅弘

その猫と出会ったのは去年の夏でした。土曜日の午後、セブンイレブンの弁当を食べていると、茶色の猫が私の前に来て「何かくれ」と鳴いたのです。私は弁当に残っていた鳥の唐揚げを投げてあげました。その日からその猫は私の家に住みつき始めました。一人暮らしだった私には大切な遊び相手になりました。学校から帰ってくる隣の家から車庫から飛んできて迎えてくれます。家に帰るのが楽しみになりました。秋が過ぎ冬になると私の布団と一緒に寝ました。朝はかわいそうだけれど嫌がるその猫を外に出してから学校に行きました。そのうち暖かい春になりました。今度は逆に外に出たがり猫には恋の季節です。えさを食べるとすぐにサッシの所で

思うこと

栗田 早苗

原稿依頼の通知を頂き、毎日何を書こうと考えているうちに提出期限の日になってしまいました。私の表題は「自由」この言葉から思うことが少しあるので書いてみます。日本はもちろん自由な国です。好きなスタイルをして好きに暮らす。それは、なんて日本の女の子は、みんな同じ髪型をして同じ服を着て、子どもみたいに細いんだろうということ。外国の女の子は、髪型も違えば、服も違うし、少しくらい太ってたって堂々として見えます。せっかく自由

(豊丘小)

須高の自然⑥

ケヤキの森小坂神社々叢 須坂指定文化財

堀米 富平



井上・小坂神社敷地約三百四十平方メートルを覆って育つケヤキ純林である。中に幹囲五センチ樹高二八センチを以てする巨木が生育している。一本、二本というケヤキ大木は各地に見るが何本もの巨木が揃っている社叢は県下にあるようではない。

な国で暮らしているのに、みんなと同じにしているんじゃない気がして、日本に帰ってきました。私自身何週間か「自分は自分であってこそ自由」と思っていました。時間が経つにつれ、やっぱりやせてた方がいいかな？みんながもってるから買おうかな？と、みんなと同じになりました。病がでてきてしまいました。他に流されない、自分のスタイル(服装も生活も)、自分の考えをもつことは、強い意志が必要なんだと改めて感じました。みんなのいうキレイな女性にはなれなくても、確かな自分の価値観をもつ、本当の意味で「自由を満喫できる」女性になれたらいいなあと、四捨五入して三十になる年をむかえ、日々思う私です。(市川・石田)

編集後記

週末は必ず雨の今年の秋。澄み切った青空が、何日も続くようになって欲しいですね。今回は、研究委員会の中間報告を中心に編集させていただきました。お忙しいところ快く、しかも、的を得た原稿をお寄せいただいた先生方から心からお礼を申し上げます。(市川・石田)